

月刊 ふじ

2月号

《今月の表紙》

「しかさん」

高校3年 H.K.さん

今号の内容

【特集】

美術「高3 卒業制作」

美術「中2 ポップアップカード」

美術「中3 季節を表す型染め

～秋・冬編～」

【連載】

67 回生 齊藤百恵「アイルランド留学記」

「高3 卒業制作」

6年間の最後に、自由に描く。自分が本当に表現したいものは何なのかをじっくり考え、約3か月かけて仕上げました。

美術選択者10名の、中高生活の集大成をご覧ください。



「昼」

F さんの作品 F30 油彩



「ルルとララの海中探索」

Iさんの作品 B1 透明水彩 ホログラムラメ



「海のギャング」

Yさんの作品 F30 油彩



「Graduate」

S さんの作品 F30 油彩



「ジゼル」

Tさんの作品 F30 油彩



「網走の海」

M さんの作品 F30 油彩



「little things」

T さんの作品 F30 油彩



「しかさん」

K さんの作品 B1 鉛筆

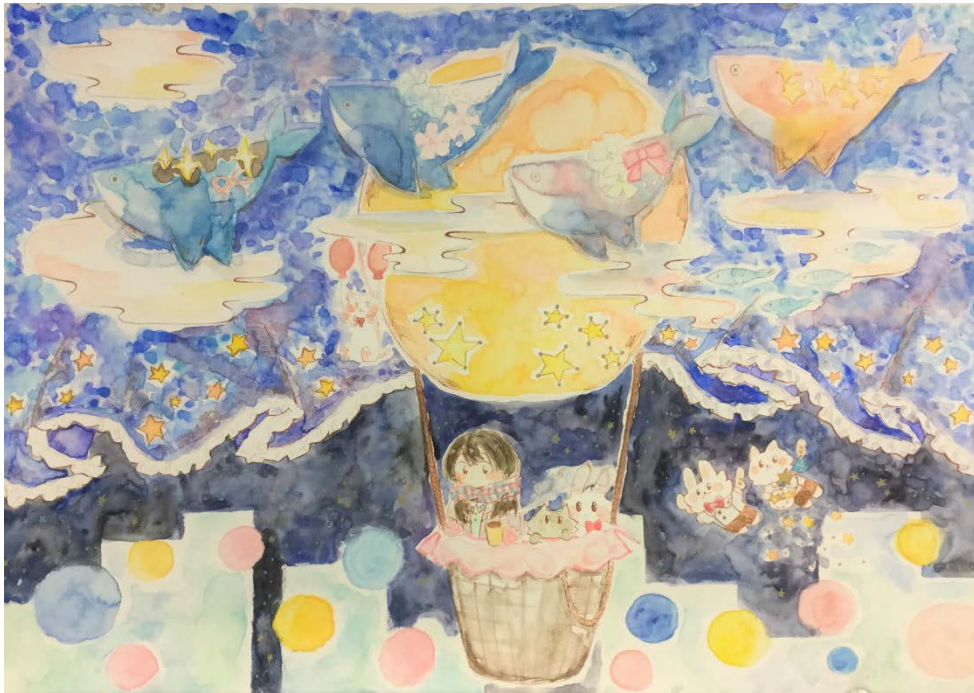


ドレスデザイン画 「Green flowers」
「Starry」

「Elegance」
「Feathers」

Wさんの作品

B4 4枚組 水彩 マニキュア スパンコール 羽など



「くまの絵」

K さんの作品

B4 2 枚組 透明水彩 ペン

「中2 ポップアップカード」

飛び出す仕掛けのあ
る、オリジナルのカード
をデザインしました。

折る、切る、貼り合わ
せる……。いろいろな工
夫をして紙の魅力を最
大限に引きだした作品
をご覧ください。



Iさんの作品



S さんの作品



S さんの作品



Ｙさんの作品



M さんの作品



M さんの作品



Kさんの作品



S さんの作品



K さんの作品



Hさんの作品

「中3 季節を表す型染め

「秋・冬編」

オリジナルの模様を考え、型染め（ステンシル）の技法で和紙やクラフト紙を染めました。

同じ形を連続させられるところが型染めの魅力であり、面白さです。型の配置を密集させたり、離したり、上下を変えたり、重ねて違う色を染めたり……。

様々な季節の風物詩がカラフルに散りばめられました。



作品とその型紙



Hさんの作品「ぶどう大収穫祭」



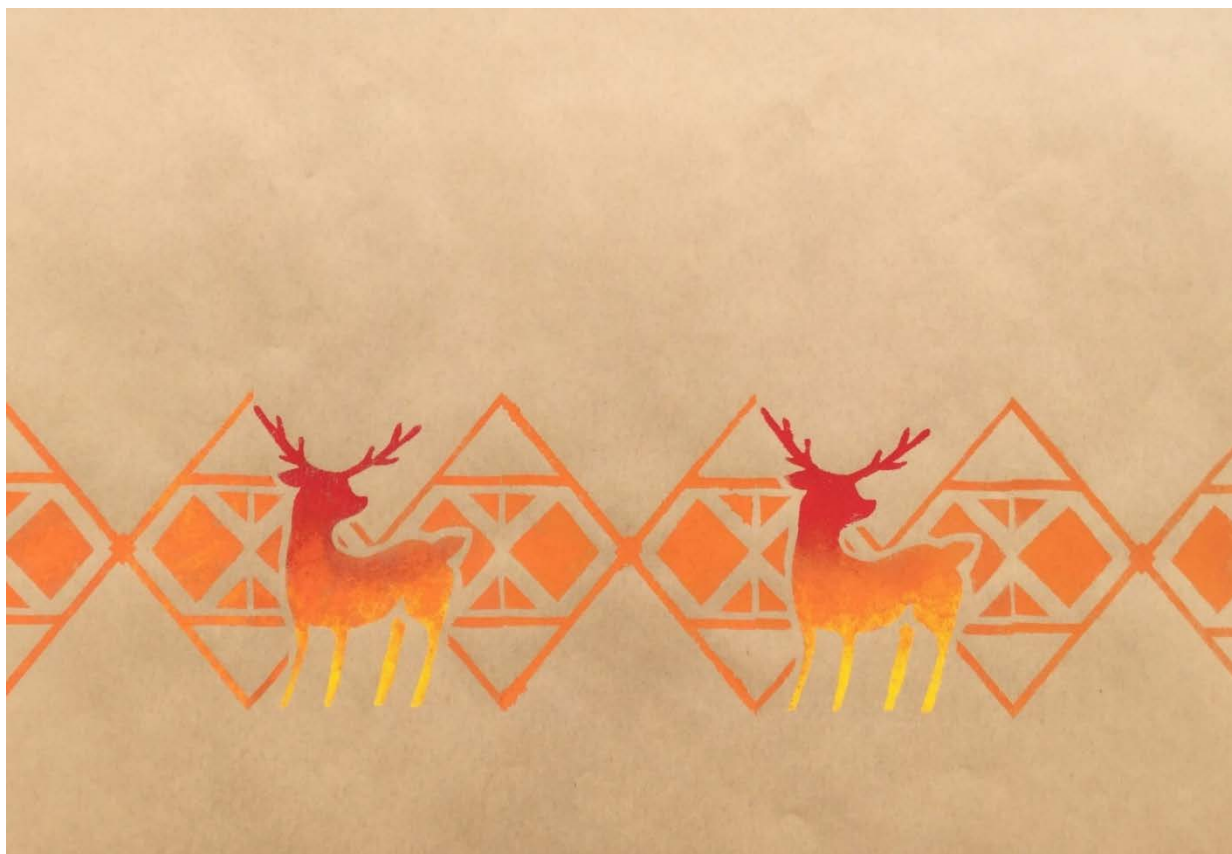
Aさんの作品「金魚と紅葉」



Sさんの作品「キノコ」



Sさんの作品「紅葉とどんぐり」



Uさんの作品「Deer」



Kさんの作品「親子」



Hさんの作品「リスと紅葉」



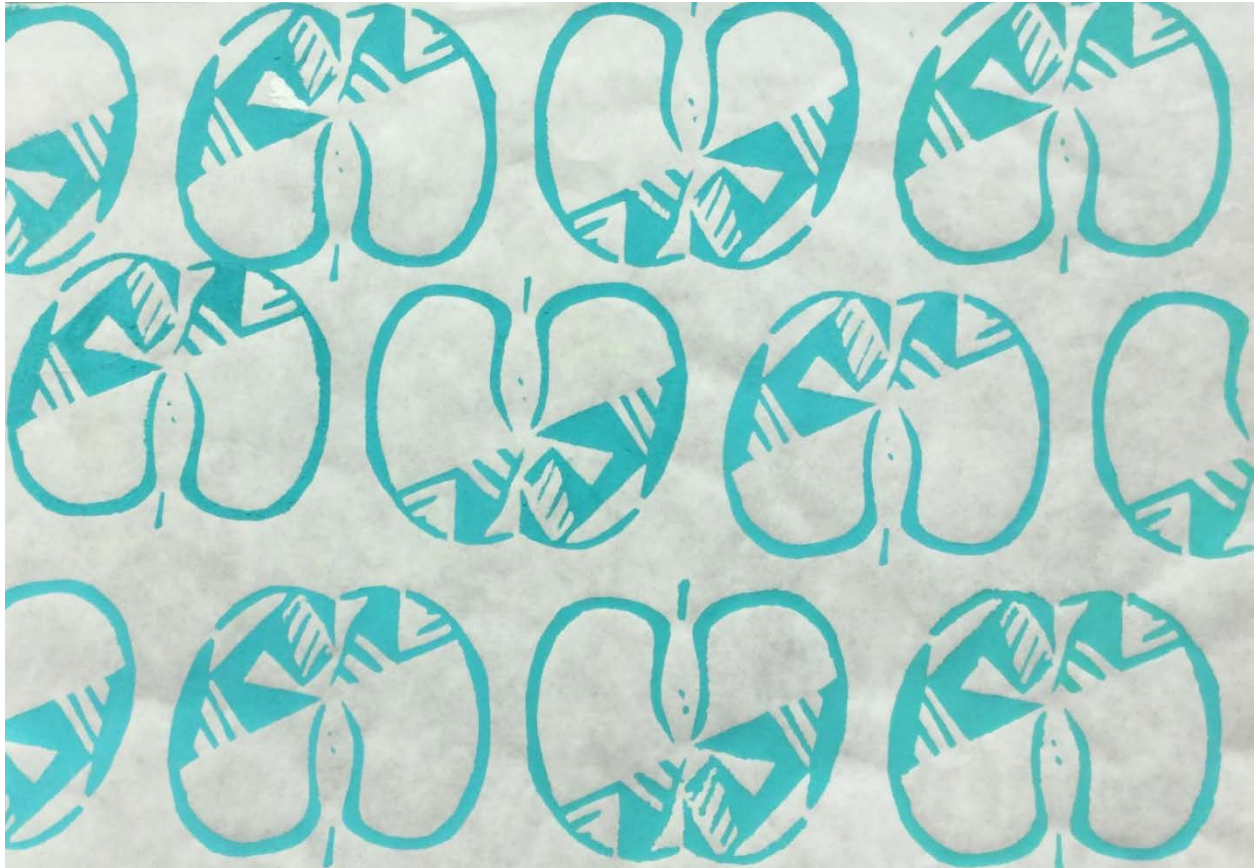
Iさんの作品「紅葉の舞」



Mさんの作品「鬼灯」



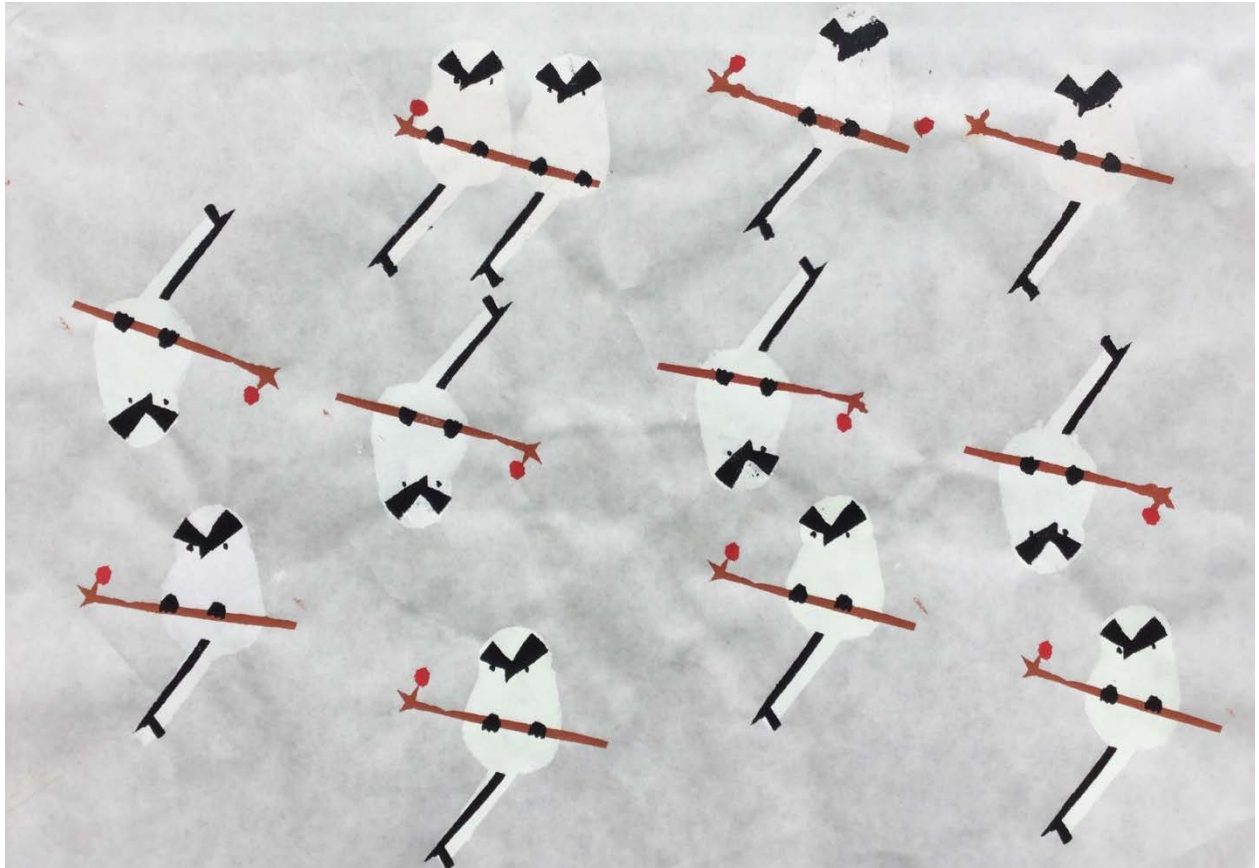
Mさんの作品「紅葉」



Aさんの作品「りんご」



Sさんの作品「雪あそび」



Ｙさんの作品「シマエナガ」



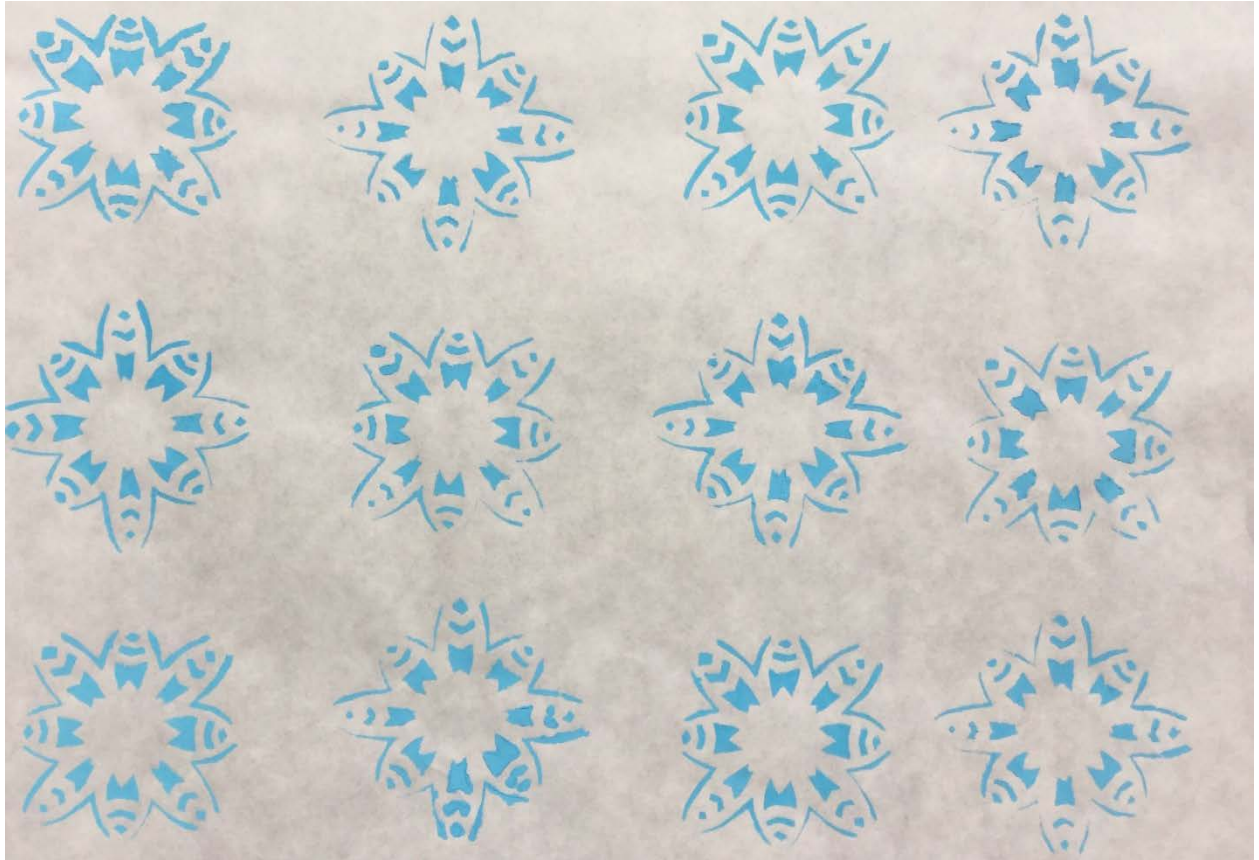
Ｏさんの作品「ペンギンズ」



Sさんの作品「ゆきうさぎ」



Iさんの作品「仲良し雪だるま」



Sさんの作品「結晶」



Hさんの作品「シマエナガ」

「アイルランド留学記」

上智大学文学部新聞学科に在籍しながら交換留学生としてアイルランドのダブリンにある Dublin City University に通う、67回生の齊藤百恵さんの連載第4弾です。

さて、今月はバレンタインデーがありましたね。今回は、その由来となった聖バレンタインに関するお話。そして豪華二本立て！番外編の「ヨーロッパ旅行記」もあります。

みなさん、こんにちは。先日、ニール先生が出張でダブリンにいらっしゃいました。お会いするのは卒業以来だったのですが、まさかアイルランドでお会いできるとは思っていませんでした。短い時間でしたが、藤のこと、留学のことアイルランドのこと、そしてニール先生の故郷であるスコットランドのお話も聞けてとても楽しい時間でした。（ニール先生、ありがとうございました！）



さて、早いものでもう 2 月ですね。大学の授業は 2 学期目が始まりました。前期に比べて専門性の高い授業になってきている反面、難しさも倍増です。一度ではなかなか理解できないので、毎回授業内容をボイスレコーダーで録音しては帰って聞き直す……の繰り返しです。とっても大変だけど楽しいです。

ところでみなさん、2 月と言えば何ですか!? そう、バレンタインデーですね！卒業してから藤の友達と集まると、必ず「バレンタイン楽しかったね～」という話題になります。私も、チョコエッグを配り歩いて後日景品だけを回収しに来た友人のことはたぶん一生忘れません。

どうして今回バレンタインについて書こうかと思ったかということ、実は、ダブリンとバレンタインはとっても深い関係にあるのです。

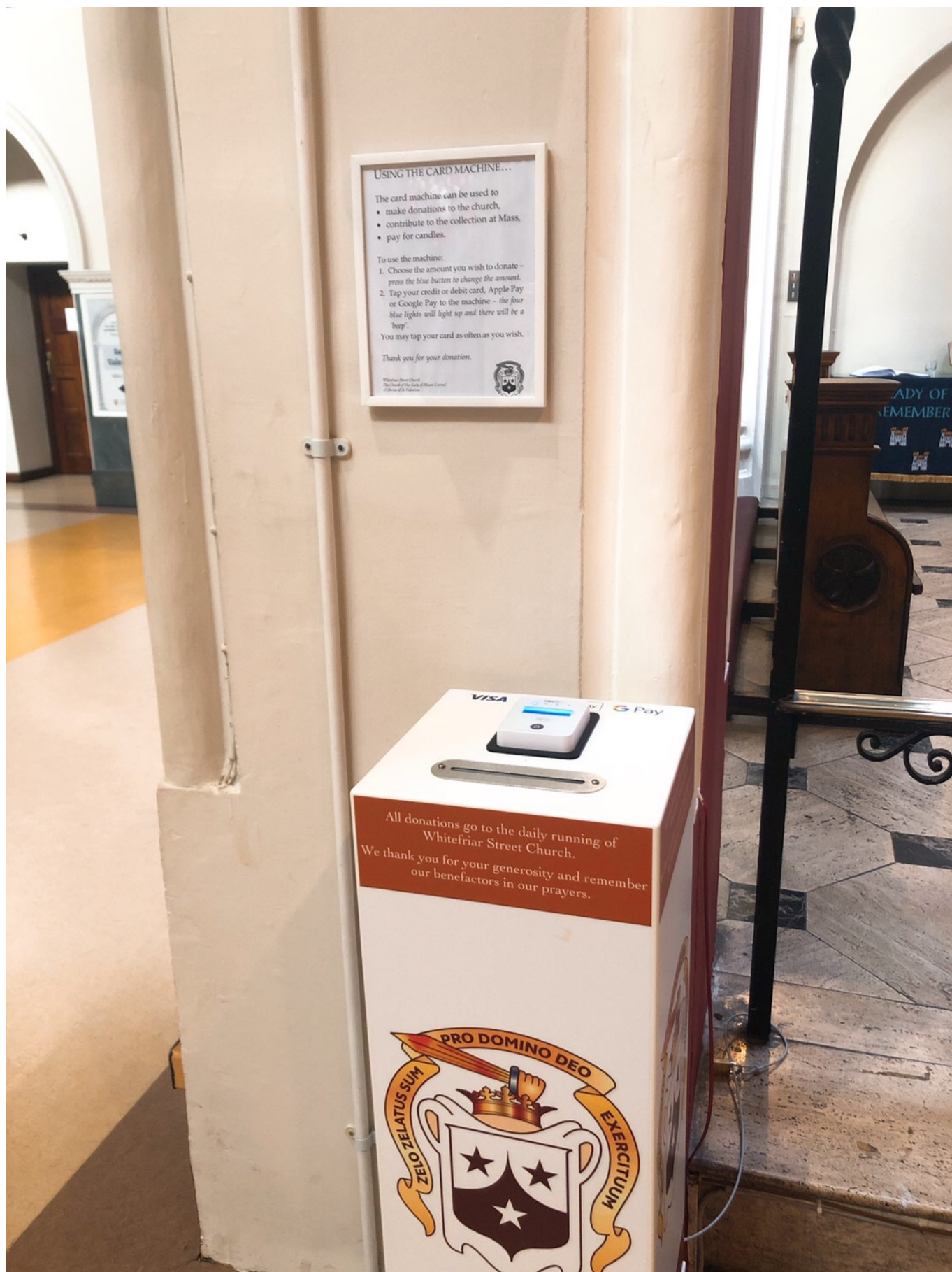


バレンタインデーの由来は、かつてローマで兵士たちの結婚が禁止されていた時代（3世紀ごろ）にこっそり彼らに結婚をさせていた司祭、聖バレンタインだと言われています。彼はのちに掟を破ったことで処刑されてしまったのですが、その聖バレンタインの遺骨が、ダブリンにあるホワイトフライヤーストリート教会に保管されています。



街中にあるこの小さな教会は、ダブリンで有名な聖パトリック大聖堂や聖クライストチャーチに比べるととても静かでした。

そして、中には聖バレンタインの像があり、その足元には彼の遺骨と血の入ったビンが保管されている箱があります。教会にあった看板によれば、この教会の神父様が1835年にローマを訪れた際に受け取った記念品のひとつが聖バレンタインの遺骨だったそうです。



この教会を訪ねた際に、教会を管理している女性とちょっとだけお話したのですが、ここでお祈りをする
と素敵なパートナーが見つかると言われているらしい
です。確かに、聖バレンタインの像の隣にあったノート
にはそのようなお祈りごとがたくさん書いてありました
（興味のある人はぜひ行ってみてください）。



ところで、今月号を書いていて気づいたのですが、残りの留学期間も残り 3 ヶ月を切りました。この留学記は皆さんにダブリンについて知ってもらうのはもちろん、自分自身の留學生活の振り返りにもなるので、残り数回しか書けないのが寂しいです。来月も何を書こうか今から考えています、どうぞお楽しみに！

番外編

モモエの ヨーロッパ旅行記



英語圏の留学先と聞いて、みなさんはどこを思い浮かべますか？ やはりカナダやオーストラリアが人気でしょうか。ヨーロッパ圏で英語が日常的に話されている国は限定されるので、これらの国に比べると留学先としてはあまりメジャーではないかもしれません。しかし、ヨーロッパを留学先に選ぶ大きなメリットがあります。それは、「色々な国に安く旅行ができること」です。私自身もアイルランドに拠点を置きながらこれまで色々な国に行きました。

例えば、日本からパリに旅行に行くとすると往復の航空券で安くても 5 万円以上はかかりますが、ダブリンからだともっと安いときに往復 3600 円です。桁違いに安いです。この安さを利用して、ヨーロッパに留学中の学生は色々な国を廻っています。今日は私がこれまで行ったヨーロッパの国の中でも特に気に入った、ウィーンとプラハについて紹介しますね。



オーストリアの首都であるウィーンは「音楽の都」と呼ばれるだけあって、電車内でアコーディオンを弾くお兄さんがいたり、カフェでピアノを弾きだすおじいさんがいたりしました。また、毎日どこかしらでクラシックコンサートが開催されているので、私たちもウィーン楽友会館でウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団の公演を観に行くことに。1番安い席は6€ (720円くらい) から、高い席は1万円以上と価格設定は幅広いです。学生なので2000円くらいの席を選びましたが、十分楽しむことができました。また、ウィーン・オペラ座の中を見学することもできました (元オケ部としては初めて本物のオーケストラピットを見て感動しました)。



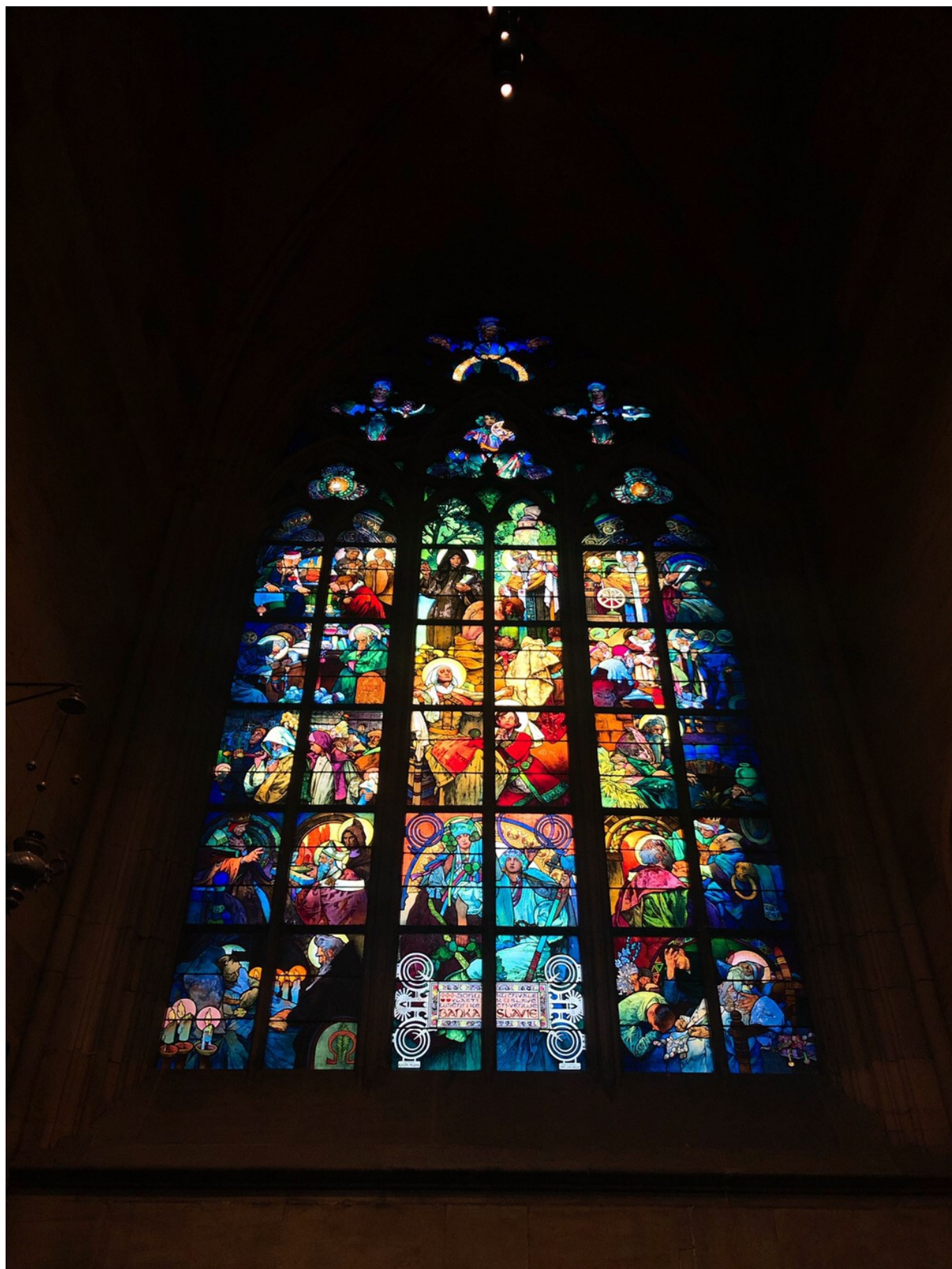
2 日目は、今回のウィーン旅行の最大の目的であるグスタフ・クリムトの『接吻』を見るためにベルベデーレ宮殿へ。意外と大きな絵でびっくり！というのが第一印象でしたが、ため息が出るくらい美しかったです。写真撮影 OK ということで何枚か撮りましたが、やはり本物には敵わない……。みなさん是非一度本物を見てください。何時間でも眺めていただけるくらい惹きつけられます。



次の日はウィーンから、チェコ共和国の首都プラハへ。ここの移動は電車で4時間。初めて陸路で国境を越えたのでドキドキしていましたが、EU加盟国間の移動のためパスポートチェックは要りません。簡単に国を超えて観光できるのもヨーロッパのいいところですね。

プラハの最大の魅力は何と言っても景色です。まるでおとぎの国のような街並みは世界遺産にも登録されています。プラハにはプラハ城という大きなお城があり、街からプラハ城へと続く「カレル橋」は歴代の王様たちが通ったことから「王の道」とも呼ばれています。橋を渡り、プラハ城に着くと聖ヴィート大聖堂があります。ここは画家のミュシャが手がけたステンドグラスがあることで有名です。

どこを切り取っても絵になるプラハ、とっても素敵な街でした。



ヨーロッパはそれぞれの街に個性があるのがいいところ。もちろんダブリンも素敵な街ですが、そこを拠点に色々な国を廻ってそれぞれの魅力を見つけるのもとってもいい経験になると思います。また次回は違う国をご紹介しますね、お楽しみに。

